

沖ノ島研究

第六号

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

令和二年三月

沖ノ島研究 第六号 目次

津屋崎地区の海浜型古墳について……………	池ノ上 宏……………	1
御米注進状・御米銭注進状にみる宗像氏貞領の郷村……………	桑田 和明……………	9
最後の大宰府守護所下文と宗像大宮司家……………	野木 雄大……………	25
新発見の豊臣秀吉文書と肥後宗像家……………	花岡 興史……………	37
《調査報告》		
沖ノ島への眺望……………	岡 崇……………	61
北九州市若松区小竹の沖津宮遙拝所について……………	鎌田隆徳・松本将一郎・大高広和……………	67
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群に関わる調査研究事業 二〇一九年度調査概要……………		81

沖ノ島への眺望

岡 崇

はじめに

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の顕著な普遍的価値の言明という約六〇〇文字からなる短文の中に、「沖ノ島への眺望」や「沖ノ島を遠くから拝む」といった文言が含まれている。これは、九州本土や大島から沖ノ島を望むということが、世界遺産の価値の一つとして認められているということである。この価値についての分析はこれまであまり行われてこなかった。

宗像市の大島には、構成資産の一つである沖津宮遙拝所があり、遠くから拝む舞台として多くの観光客が訪れている。観光客は口々に「今日は沖ノ島が見えなかったので心の目で拝みます。」とか、「今日ははっきり水平線上に沖ノ島が見れてうれしかったです。」とか、「大島三回目ですよやく沖ノ島を見ることができました。」など、さまざまな感想が聞こえてくる。これまで、大島から沖ノ島が見える可能性については、春から夏にかけてはひと月に三日くらい、秋から冬にかけてはひと月に十日前後ではないかと感覚的に言われてきた。

このように何となく人の感覚で伝えていた沖ノ島の視認性については、二〇一八年六月六日から大島砲台跡の近くにあるトイレの壁に設置したカメラが作動し、二十四時間ライブで沖ノ島を見ることが可能となったため、より具体的に視認日数やクリア度の情報を把握し眺望という観点から調査を実施できるようになった。

一 調査方法

今回報告する調査期間は、データを取り始めた二〇一八年六月から、二〇二〇年二月までの二十一か月間である。

現在は、「みちびき沖ノ島」というアプリからスマートフォン等でだれでも確認することはできるが、観測は「海の道むなかた館」及び「大島交流館」のパソコン画面で行った。

カメラを設置している砲台跡のトイレ壁（標高一六〇m）から沖ノ島までは約五〇km、障害物もなく直接望むことができる。

調査は、就業時間中に行い主に毎朝の出勤時に画面を開き、沖ノ島の見

え方やその時間と天気を調査表に記入する方法で行った。

その作業のなかでポイントとなる沖ノ島の見え方については、人の感覚なので誤差が生じる可能性を考慮しつつ、次のように四つに分類し(図一)、データの収集を行った。

- ・岩肌までくつきり見える…◎
- ・輪郭が見える …○
- ・うっすら見える …△
- ・まったく見えない …×

集計は、次の二通りの目的で実施した。

- 一つは、ひと月を単位に観測した日数の内、うっすら以上見えた日(◎○△)が何日あって、全く見えなかった日(×)が何日あったのか。そこから、ひと月にうっすら以上見えた日の割合を算出した。
- もう一つは、その日の沖ノ島の見え方(視認クリア度)を数値化するもので、次のように見え方に点数をつけた。
 - ・◎||2点 ○||1点 △||0・5点 ×||0点

観測を続けていくうちに、一日のなかで朝は見えなくても午後から見えることなどが確認されたため、見え方の変化に応じてさらに細かく数値化した。

- ・◎↓○または○↓◎||1・75点
- ・◎↓△または△↓◎||1・5点

- ・◎↓×または×↓◎||1・25点
- ・○↓△または△↓○||0・75点
- ・○↓×または×↓○(※)||0・5点
- ・△↓×または×↓△||0・25点

(例) ※午前中は全く見えていなかった(×)が、午後から普通に見えるようになった(○)場合、0・5点。

この一日一日の見え方の数値をひと月分合計し、うっすら以上見えた日の合計から割って、その月の視認クリア度を割り出した。つまりその月の沖ノ島の見え方がどれくらいクリアだったのかの平均値を導き出した。表一に、二〇一九年四月のひと月の調査表を例示する。

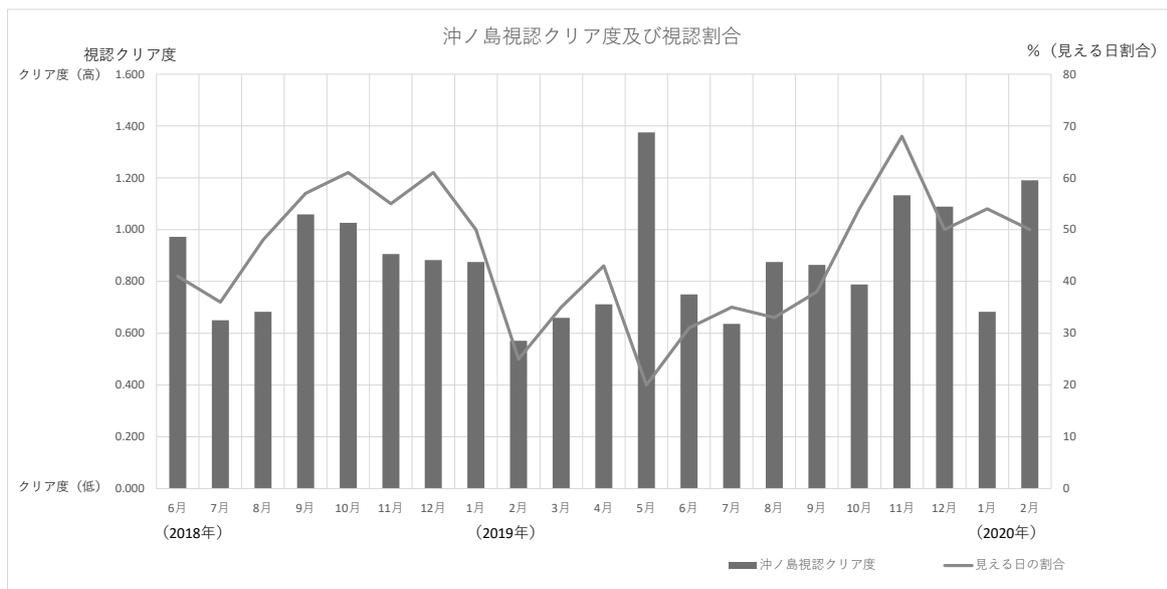
ライブカメラ画像	拡大	判定
		◎
		○
		△
		×

図1 沖ノ島の視認基準

2019年

4月	時間	天気	観察内容	沖ノ島視認	見え方数値	
1日	月曜日	9:00	晴れ	沖が少し霞む	○	1
2日	火曜日	8:00	晴れ	霞が強い16:00霞が取れる	△→○	0.75
3日	水曜日	9:30	晴れ	霞が強い	×	0
4日	木曜日	9:30	快晴	霞が強くて見えない15:30霞がやや取れる	×→△	0.25
5日	金曜日	8:30	晴れ	沖はやや霞む15:40霞が強まる	△→×	0.25
6日	土曜日	8:30	晴れ	黄砂で全く見えない	×	0
7日	日曜日	9:40	晴れ	霞が強い	×	0
8日	月曜日			大島交流館情報	×	0
9日	火曜日	9:30	晴れ	微かに見える	△	0.5
10日	水曜日	8:10	雨曇り	白く霞んで見えない午後見えるようになる	×→○	0.5
11日	木曜日	8:15	晴れ	空気が澄みよく見える	◎	2
12日	金曜日	9:06	晴れ	見える	○	1
13日	土曜日	8:40	晴れ	霧霞で見えない	×	0
14日	日曜日	9:30	曇り	霞の中でかすかに見える	△	0.5
15日	月曜日	10:22	晴れ	霞で全く見えない	×	0
16日	火曜日	7:30	晴れ	海は白く霞み見えない	×	0
17日	水曜日			大島交流館情報	×	0
18日	木曜日			大島交流館情報	×	0
19日	金曜日	9:00	晴れ	霞で見えない	×	0
20日	土曜日	8:22	晴れ	霞で見えない	×	0
21日	日曜日	8:06	晴れ	沖は白く霞んで見えない	×	0
22日	月曜日			大島交流館情報	×	0
23日	火曜日	9:50	曇り	白く霞んで見えない	×	0
24日	水曜日	8:24	雨曇り	沖ノ島上半分よく見える午後海霧	○→×	0.5
25日	木曜日	9:28	雨曇り	周辺は霧で見えない	×	0
26日	金曜日	15:10	曇り	かすんで見えない	×	0
27日	土曜日	10:17	晴れ	沖は霞むが見える	○	1
28日	日曜日	8:18	曇り	霞むが見える	△	0.5
29日	月曜日	14:27	雨	雲で見えない	×	0
30日	火曜日	8:10	霧雨	霧で全く見えない午後霧はれる	×→○	0.5
				計	9.25	
				日数	割合	
				見えなかった日数	17 57%	
				見えた日数	13 43%	
				合計(サンプル数)	30	
				視認クリア度(見え方数値総計/見えた日数)	0.712	

表1 観測シート (2019年4月のデータ)



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
サンプル日数	22	28	31	30	31	29	28	28	28	31	30	30	29	31	30	29	24	25	28	28	28
見えない日 (%)	59	64	52	43	39	45	39	50	75	65	57	80	69	65	67	62	46	32	50	46	50
見える日 (%)	41	36	48	57	61	55	61	50	25	35	43	20	31	35	33	38	54	68	50	54	50
沖ノ島視認クリア度	0.972	0.650	0.683	1.059	1.026	0.906	0.882	0.875	0.571	0.659	0.712	1.375	0.750	0.636	0.875	0.864	0.788	1.132	1.089	0.683	1.190

表2 集計表

二 分析結果

分析の結果、見える日の割合は、二月から八月にかけては、月に三〜四割程度、九月から一月にかけては、月に半分以上の日数であることがわかった。

沖ノ島の視認クリア度は、二〇一九年五月が飛びぬけて高く、これは見える日数は少ないものの、見えた日はかなりクリアに見えたことを示すが、年間を通すと概ね秋から冬にかけてが数値が高い。その結果、コンスタントに沖ノ島を見るためには九月から十二月がおすすめのようである。当然ながらこの間も全く沖ノ島を見ることができない日もあるのでご注意願いたい。

三 課題

- 今回の調査では、まだまだ精度が十分ではなく課題を残している。
- カメラガラスカバーの汚れによる見え方の違いや、個人個人の見え方の判断に差があること。
- カメラの故障、インターネットの不具合、休館で観測していないなどの理由で月のサンプル数にばらつきがあること。
- 一日の中で見え方が変わることが観測開始から数か月後にわかったこと。

まとめ

今回の報告は、精度はまだまだ低いものの、沖ノ島の見え方の傾向が季節によってある程度確認されたので、このような観測や分析を実施しているという告知をかねて行うものである。

現在もひきつづき観測を続けているが二〇二〇年三月からは、午前九時前後に一回、午後三時前後に一回の一日に計二回の観測を実施し、その都度画像を保存することとした。これによって今後は一日の変化を少しでも細かく捉え、かつ見返して比較することができるため、判定の精度が向上するものと考えられる。

この調査を続けることで、沖ノ島の見える日の予測や、将来的には見える日数の増減により大気汚染などの地球環境の変化も捉えることができるのではないかと期待している。

(宗像市世界遺産課)

本誌の既刊行分データは以下のホームページよりダウンロードできます。
<https://www.okinoshima-heritage.jp>

沖ノ島研究 第六号

2020(令和2)年3月発行

発行:「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
(事務局:福岡県 人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産室
〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7番7号)

OKINOSHIMA RESEARCH MONOGRAPH

6

CONTENTS

	Page
IKENOUE Hiroshi	
Mounded Tombs and Graves by the Sea in Tsuyazaki, Fukutsu City	1
KUWATA Kazuaki	
Villages held by Munakata Ujisada seen from <i>onkome-chushinjo</i> and <i>onbeisen-chushinjo</i> (Investigative Reports of Taxes)	9
NOGI Yuudai	
The Last Edict (<i>kudashibumi</i>) from the Headquarter of Dazaihu Shugo (Dazaifu Shugo-sho) and the Munakata Daiguji Family	25
HANAOKA Okifumi	
Recent Discoveries Regarding Toyotomi Hideyoshi Documents and the Higo Munakata Families	37
OKA Takashi	
Research on the Views toward the Okinoshima Island	61
KAMAKA Takanori, MATSUMOTO Shoichiro, OHTAKA Hirokazu	
Research on Okitsu-miya Yohaisho at Odake, Wakamatsu Ward, Kitakyushu City	67
Summary Report of Investigations on the “Sacred Island of Okinoshima and Associeated Sites in the Munakata Region,” 2019	81

2020

Preservation and Utilization Council of the
Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region